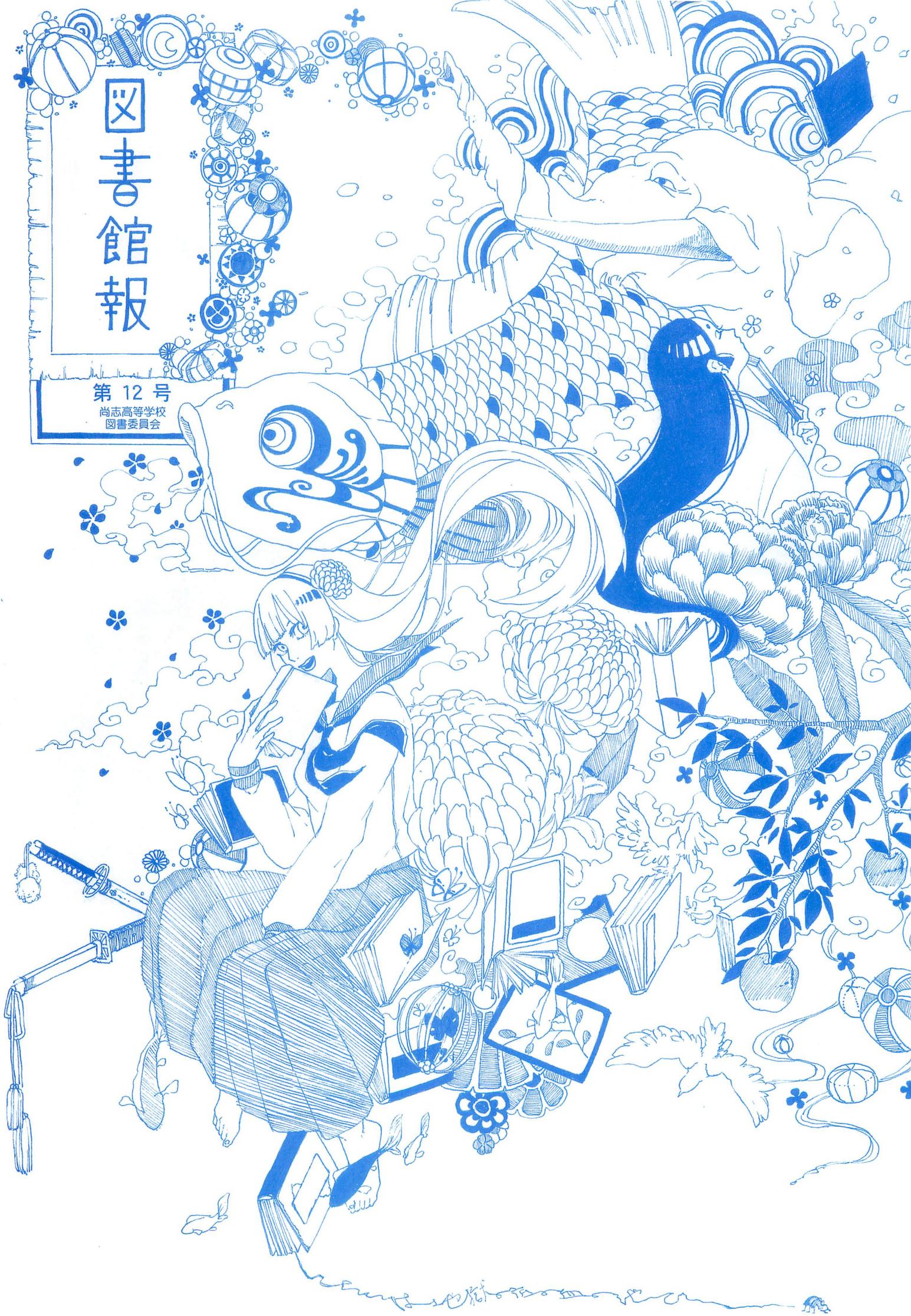


図書館報

第 12 号

尚志高等学校
図書委員会



「情報を受け止める感性」



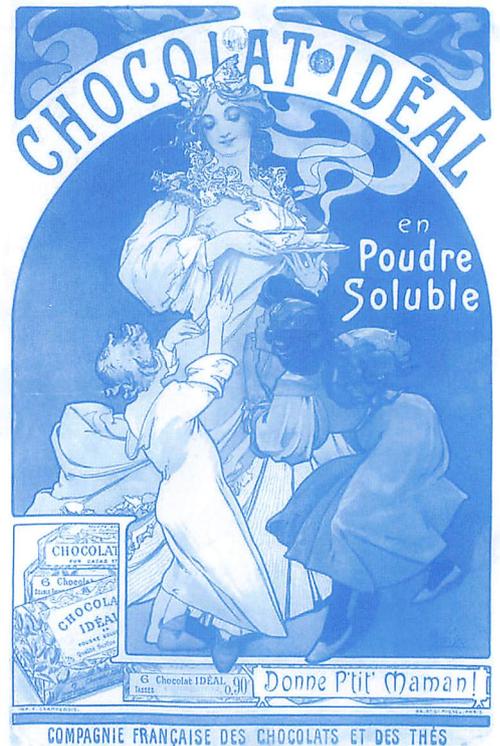
学校長 倉又晴男

一昨年は「北斎漫画」の話をしたと思
うが今回は、西洋に目を向けて話をした
と思う。機会があつて新潟県立万代島
美術館を訪れることがあつた。開館前か
ら多くの人が並び、心躍らせていたのが
ミュシャ展であつた。十九世紀末のチエ
コ人の画家である。ミュシャのスタート
はイラストレーターとして地道なもので
あつたが、フランスの大女優サラ・ベル
ナールに才能を見いだされ、専属のポス
ター作家として舞台広告ポスターを描き
続けたことが彼の芸術性を揺るぎないも
のにした礎だといわれている。人気ポス
ター作家となつたミュシャのもとには、
クッキーメーカーや化粧品会社の、家具



製作会社等々か
らポスター製作
依頼が殺到して
いた。美術館に
展示されていた
広告ポスターは、
美しい女性が
クッキーを手に
しているところ
を描いているが、
まさに焼きたて
の香ばしさとバ
ターの芳醇な香
りが伝わってくるようである。化粧品の
ポスターはモノクロであつたが、逆に女
性が手にしている口紅から鮮やかな「紅」
が見えるようであつた。

その後、彼が追求したものは「美」で
あり、「美」を通して大衆を啓蒙しイン
スピレーションを与えることで人々の生
活を豊かにすることを目標としたのであ
る。アールヌーボー(新しい芸術)とい
う言葉を聞いたことがあると思うが、



ミュシャは
その旗手と
して現代の
画家、イラ
ストレー
ター、漫画
家などに影
響を与えて
いるのであ
る。生徒諸
君には、本
や絵画・ポ
スター・写
真など情報を発信しているものを感性豊
かに受け止め、自分の生活を豊かにして
もらいたい。見たことのないもの、味
わつたことのないもの、知らないものが
情報として、目や耳から入ってきたら、
大いに知的好奇心を発揮して、自分で体
験してもらいたい。その入口が本であり、
絵画でありポスターや写真なのである。

今回の図書館報は、見ての通りリ
ニューアルされ、新しい「情報」が多く
載せられている。表紙は美術部員のデザ
インによるものであり、中の紙面には
1・2年生の読書感想文が紹介されてい
る。更に、福島県文学賞に応募した詩や
小説の一部抜粋が紹介されている。大変
誇らしいことであり、読む者は大いに刺
激を受けてもらいたい。
多くの生徒が読書に時間を割き、本を
通して未知なるものへの見聞を広めても
らいたい。そして本を通して品格を向上
させ、人格を磨いてくれることを願ひ図
書館報の挨拶とする。

目次

| | |
|-----------|----|
| 巻頭のあいさつ | 2 |
| 読書感想文 | 3 |
| フォト俳句 | 7 |
| 詩とイラスト | 10 |
| 読書アンケート | 13 |
| 貸出及び利用状況 | |
| 多読者賞・編集後記 | 16 |
| 表紙イラスト | |
| 2G1 柴田 悠菜 | |

読書感想文

国語科の協力を頂き、「夏休み
の読書感想文」の中から、優秀
なものを載せました。

手紙



東野 圭吾
(文集文庫)

1 G 8

金田 弘哉

「差別はしてはいけない。」「差別はあつてはいけない。」このような事を当たり前の事だと皆は言うかもしれない。だが僕は東野圭吾さんの「手紙」を読んでみて、差別についてかなり考えさせられました。

弟の学費欲しさに強盗殺人をしてしまった兄。「殺人犯の弟」というレッテルを貼られ、差別を受けながらも必死に生きていく弟。

「犯罪者の弟」というだけで何の罪もない弟が差別をうけるのはおかしい。小学校などならそう言われるだろう。だがもしも自分が被害者の家族だったらそう考えると僕も、加害者はもちろん加害者の家族も許せないかもしれない。

一方、もし自分が主人公だったらどうだろう。「なぜ何の罪もない自分が差別をうけなければならないのか。」そんな事を思うだろう。周りの人達にこんな感情を抱くのは筋違いかもしれないがきつ

とそんな憤りをおぼえると思う。そして被害者の家族に申し訳なく思い、兄を恨むであろう。

二ユースなどでも、大きく報道されるのは被害者のコメントなどではないだろうか。私もそれを見て被害者に同情するし、もしも自分が、家族が被害にあったらどうしよう、と被害者の立場から考えることが多い。

加害者や被害者の家族の方はどうかといえは多くの人はあまり関わりたくないと感じるだろう。差別を肯定するわけではないが、それが現実なのではないだろうか。これは本の帯にも書いてある。主人公の就職した会社の社長の言葉である。

「差別はね、当然なんだよ。犯罪者やそれに近い人間を排除するというのはごくまっとうな行為なんだ。我々は君のことを差別しなきゃならないんだ。自分が罪を犯せば家族をも苦しめることになる。すべての犯罪者にそう思い知らせるためにね。」非常に重い言葉である。差別をしたくないが、しなければならぬのだろうか。考えさせられる言葉だと思えます。

結局最後に主人公は、妻や子どもたちのために、兄との縁をきることになる。実際の兄弟と縁をきるのは、どれほどつらいことだろうか。それが正しい選択だったのかどうかはわからない。もしも自分が主人公の立場であつたらどうしていたらどうか？

差別や偏見のない世の中は理想的である。だがこの作品を読んでみて、それきれいな事ではないのだろうか？そんなことを考えさせられた。きれいな事だけ

は、今の世の中を生きていくことは難しいことだと思う。だからといって、僕には「差別は当然だ」と言いきることもできない。口では差別はだめと言いたい。だがこの作品をよんでみて、心の底からそれがいえるだろうか？などいろいろなことを考えた。

私たちはこれからもっと、差別や偏見そして犯罪について、深く考えなければいけないと思う。

「ふたり」を読んで



赤川 次郎
(新潮文庫)

1 G 11

遠藤 百華

人は、一人では脆くて弱いけれど、誰かを支え、また支えられることで強くなっていくのだと思います。

私は、この本を読み終えてから一カ月近く感想文に取りかかることができませんでした。その間、何度も読み返しましたが、本の内容があまりにも酷で、うまく自分の中でも整理できなかつたのです。「死」について、こんなにも真っすぐに向き合ってしまうと、人はすぐに壊れてしまうもので、どんなに酷い状況の中でも人は支え合い、そして裏切ってしまうこともあるということを自分の中で消化するのに時間がかかりました。

姉という大きな存在を失ってしまった実加。目の前で死んでしまった姉は、いつもみんなの中心で何でもできる人だっただけれど、自分は姉よりできることはないと生きていたのです。そして、姉

の千津子が死ぬ直前に、「あんたね、私なんかより、ずっとずっと才能のある子なのよ。」と言いつつ残していった言葉も上手く受け入れることができないのです。人は、何でもできて目立つ人が素敵だと言いつつ、何でもできることが全てだと思つていられるかもしれない。けれど、本当の人としての素晴らしさとは、なかなか目に見えるものではないと思います。それは、心の中にあるからです。

しかし、実加が自分は「できない」と思い、死んでいたのが自分だったら、みんなこんなに苦しまなくて済んだかも。ということも思ってしまうことが残念で仕方ありませんでした。そんなときに、実加のことを励まし、死ぬのが自分だったらという考えに対して全力で怒つてくれた親友の真子という存在は大きかったと思います。支えてもらうことで、実加は強くなり、前向きに生きていこうと思えるようになったからです。

そして、真子の父の突然の死が訪れ、今度は実加が真子を支えることになったとき、いつ訪れるかも分からない「死」の恐ろしさを感じました。自分の周りには大切な人がいついなくなってしまうかも分からない。だからこそ、生きていられる時にできる限りのことをして、できる限りの思いを伝えたいと思いたくありません。

様々な辛い出来事が重なっても、実加は頑張り続け、ようやく、家族としてみんなでまた立ち直っていくというときに訪れる、更なる悲劇は受け入れ難いものでした。実加への嫉妬を抱いていた部活の先輩が、実加の母をまたも情緒不安定

な状況に追い込むのです。このことに対し、私は怒りしか感じませんでした。これから立ち直って歩んでいこうとする家族に、よくもそんなことができるものだと。

そして、そこへ父の浮気という裏切りが発覚し、実加は追いつめられてしまい、壊れる寸前だったと思います。そんな時、実加をまた支えていたのは姉の存在だったのだと思います。最後の最後まで悲劇は重なり、それでも前を向いて強く歩まなければなりません。歩むことをやめなかつた実加は、やはり千津子の言うように、底の方で光っているものを持っている、かけがえのない特別な人なのだと思います。

実加の頭の中には姉がいて、姉の声が聞こえていたのはきつと、実加の中で削り上げられた姉の心の中に存在していたからだと思います。そして、実加の頭の中から姉の声が聞こえなくなったときから、実加は自分自身を認めることができただのだと思います。

人は、誰かを必要とし、誰かに必要とされることで生きているということを実感できるのだと思います。だからこそ、今ある時間を大切に、生きているからこそできることを精一杯やらなければいけないと思います。



「ポトルネック」を読んで



米澤 穂信 (新潮文庫)

1 G11 庄原 結依

ポトルネックとは。「瓶の首は細くなつていて、水の流れを妨げる。そこから、システム全体の効率を上げる場合の妨げとなる部分のことを、ポトルネックと呼ぶ。全体の向上のためには、まずポトルネックを排除しなければならぬ。」作中では、ポトルネックという言葉の意味はこのように記されている。しかし、作品を読み進める中で、この言葉に込められた本当の意味に触れた。人間

誰しもが一度は考える、自身の生きる意味や価値。この作品を読んで、私自身も改めて、自身のアイデンティティについて深く考えさせられた。「どうしようもないことは、受け入れられないじゃないか」——自分に対して他人に対しても臆病で、辛いことを「仕方のないこと」として受け入れてしまふ主人公・リヨウ。自分が生まれることのなかった世界に飛ばされた彼は、その世界で彼の代わりに生きる姉・サキとともに、二つの世界の「間違い探し」をはじめ、自分がいる世界に戻する方法を探る。彼女がいる世界では、自分が生きる世界での両親の不仲が修復されており、自分の世界では亡くなっているはずの兄や、好きだった女の子が生きている。そしてリヨウは気づいてしまふ。自分が世界に対して全く無力であるということ。自分がこの世界の「ポトルネック」であ

るということを。自身の存在する意味が分からなくなり、リヨウが「もう、生きたくない」とつぶやくと、元の世界に戻ってくる。そして母から一件のメールが。「リヨウへ。恥をかかせるだけなら二度と帰ってこなくて構いません。」生きること絶望した彼はこれから一体どうするのか。はつきりと描かれないまま作品は終わっている。

リヨウは、好きだった女の子の死でさえも、「どうしようもないことだ」と受け入れていて。そう考えて割り切ってしまうのは簡単なことだが、そこで思考をやめてしまうことで本来解決できる問題も解決できなくなってしまう。この作品の中で私が感じたのは、同じ環境でも、仕方がないと受け入れてしまふか、そうでないかによって、結果は変わることだ。

そして、この物語の結末だ。自分と姉が入れ替わっただけに、自分がいない方の世界ではたくさんの人が救われている。十代の主人公にはあまりにも残酷な現実だ。生きること絶望してもらうのも無理はないだろう。しかし、そんな体験をした彼にだからこそ、自分の生きるべき世界で生きてほしいと、私は願う。自分のいない世界で、リヨウは気づいたはずだ。今まで自分が「仕方のない」と受け入れてきてしまったことで、失っていた未来があったこと。そして、サキのように、想像力を働かせてどうにかしようとするれば、未来は変えられるということに。過去を変えることは出来ないが、未来を変えることはきつと出来るはずだ。二つの世界を知ったリヨウになら、きつと。

健聴者としての反省と感想



有川 浩 (新潮文庫)

2 G11 北野瑛梨奈

有川浩さんが書いた「レインツリーの国」という作品は読書好きな主人公とヒロインが難聴者の話です。

私は今まで聴覚障害について深く考えた事が無かったのですが、この本は私が今まで持っていた常識を全て取っ払ってしまいました。

そんな私の中で印象に残っている文が幾つかあります。

一つは主人公がヒロインの障害を知ってから、文字放送について一言

「世の中、無意味なものなんか何にもないねんなあ」

本の描写にはありませんが、主人公は

この時、泣いていたと思います。自分がやってしまった、取り返しのない事と、世界の大きさに恐怖して。私がそうでした。

私達、つまり健聴者にとっては、当たり前すぎて気付かなくて、むしろ邪魔にさえ思っている事には、ちゃんと意味があつて、ヒロインである障害者達には伝わる。それが羨ましいと思う反面、私達が障害者と、差別的な言葉を使って区別するように、「あなた達とは生きてる世界が違う」と、歩み寄る事さえも拒絶されてしまったような、胸の痛みを憶えました。

私は五体満足で産まれ、体も丈夫であり、病気や障害といったものとは無縁でした。その為、障害がテーマに描かれているこの作品を読んだ時の衝撃は本当に大きく、読み終わった後も、何度も読み返してしまいました。

この作品は、ヒロインが何度も主人公を拒絶するのですが、主人公はめげることなく、諦める事なく、ヒロインに歩み寄ります。そんな主人公は、私達がこれから歩むべき未来の姿だと思えます。たしかに、健聴者が難聴者の苦しみを真に理解するのは不可能でしょう。だからといって、歩み寄り、理解する努力を止めてはいけない、少なくとも、その努力をした事を、後悔する事は絶対ないのだから、理解出来なくても、全く理解出来ない、少し理解出来るでは大違いだから。作品を読んだ後、私の世界は大きく広がりました。「レインツリーの国」は、読者の常識の壁を壊して、世界の広さを教えてくれる作品でした。

「車輪の下」ヘルマン・ヘッセ



ヘルマン・ヘッセ (新潮文庫)

2 G 3

大窪 泰輝

勉強と遊ぶこと、どちらが大切かと言われると、みな口をそろえて前者を選ぶであろう。しかし、私は遊ぶことだと思ふ。遊ぶことというのは、自らの体で自らの考えで行動するという、人間にとって生きていく上で一番大切なものだからだ。たいていの親は勉強してから遊びなさいという。私の考えは、遊ぶという、生活のステータスの上に勉強が成り立っているのだ。ということである。この本の主人公ハンスは親や周りの人達の期待に応えようとして、猛勉強を続けるのだが、しだいに自分が存在している意味がハンスの中でうすれていき、自暴自棄に陥ってしまうのである。

ハンスは、神学校に無事入学することになる。そして、親だけでなく、周りの人もハンスを祝福したのである。ハンスは神学校に入り、猛勉強を続けたのだが、クラスメイトのヘルマンに「ガリ勉野郎」とバカにされ、それをきっかけに、持病の頭痛がひどくなつたのである。このヘルマンという人物はいわゆる天才である。ハンスとは対照的な人物である。努力努力のハンス、天才的なヘルマン。この二人の違いはどこからきたのだろうか。育てられた環境や遺伝の関係もあると思うが、やはり遊ぶという生活のステータスの大きさが決定的に違うのだと思う。ステータスの土台が大きければ大

きいほどたくさんのものがのせることができる。でも小さい土台にはいくらのせてもこぼれ落ちていく。そして土台は崩れる。ハンスとヘルマンを対照的に表している。現実では東大を出ても、職につけないという人がたくさんいるのではないか。つまり最後に笑っている人は、生きているすべを身に付けている人であると思う。

頭痛が治らないハンスは「心の病」と診断され、勉強を続けることができず、神学校をやめてしまうのである。ハンスは村に帰り、父親のすすめで、町工場で働くようになるのだが、勉強がなくなつたハンスはもぬけのからであった。何をしても、魅力を感じない、つまらない。こういう時は誰にでもあるが、ハンスの場合、過度すぎて、もう救いようがなかったのかもしれない。

そんなある日、ハンスは遠足にさそわれ、行つた先で、酒に酔い、自らが分からなくなり、川へ下りていったのだ。翌日、ハンスは溺死の状態で見つかる。

結局、親や周りの人の期待が重すぎたのか、ハンスが弱すぎたのかは分からない。しかし一つ言えることは、バカなやつもいれば、天才もいる、ゲームが得意なやつがいれば、勉強ができるやつもある。つまり、人それぞれなのだから、その個性で生まれてきた自分を好きになることだ。うぬぼれてるとまでは言わないが、自分は自分、他人は他人、人の目なんて気にしない。今を生きる上で最も大事なことであろう。

「きみの友だち」を読んで



重松 清 (新潮文庫)

2 G 6

加藤ほのか

私は「きみの友だち」という本を読みました。この本を選んだ理由は、この本のあらすじを読んでおもしろそうだなという興味を持ったからです。

この本は、各章ごとに主人公が変わっていきます。その中でも一番の主役となつているのが恵美ちゃんです。恵美ちゃんは、小学生の時、下校中の突然の雨で傘をさした。友だちの中で恵美だけが傘を持っていなかったため、友だちが駆け寄ってきて傘に入り、しまいいは五人で押しくらまんじゅうをするように傘を分け合うことになつてしまった。恵美ははじきだされ、話したこともない子の傘に入れてもらおうと思つたが、ガードレールを越えてしまいい車道に飛び出してしまった。それから恵美の足は不自由になつてしまい、怪我を友だちのせいにしてお母さんのせいにして、クラスの誰ともつき合わなくなつてしまった。そんな事件がきっかけで病気がちの由香ちゃんと、だんだんと仲良くなつていく。この本は「本当の友だち」とは何か考えさせてくれる物語です。

私がこの本を読んで、一番心に残つたところは、恵美がもう中学三年生になつており、高校受験を控えていた頃、もともと病気がちだった由香の容態が悪化してしまいました。そこで心に残つたのは、由香ちゃんは自分がもう死んでしまふか



もしれないのに、恵美ちゃん受験のことを自分のことのように心配してくれたことが優しいなと思いました。しかし、その後由香ちゃんは亡くなり、恵美と由香は五年という短い時間しか一緒にはいられませんでした。でも、恵美ちゃんがいなくても寂しくないのが「友だち」と言った時、恵美ちゃんはすごく心の強い子だなと思ひ感動しました。最初の場面でも、恵美ちゃんが周りから一人ぼっちにされてしまった時、それでも自分をぶれさせずにいた姿はかっこいいなと思いました。私も小学生の頃、友達だと思っていた子に距離を置かれたことがあります。その理由も分からず他の友だちと過ごしていると、自然ともと通りになつたので良かったのですが、恵美ちゃんと由香ちゃんに対する周りの扱いは本当にひどいなと思いました。そして、私は恵美ちゃんのような人になりたいと思いました。

私はこの本を読んで、恵美ちゃんの体験から「本当の友だち」について学ぶことが出来ました。この本を通して恵美ちゃんの行動から、本当の優しい姿が伝わってきて良かったです。これからも、私は「友だち」を大切に、毎日を友だちと楽しく過ごせるよう、いじめのないような生活をしていきたいです。

新着図書案内

今年度に購入した本の一部です

| 書名 | 著者 | 出版者 | 請求番号 |
|---------------------------------|-----------------|-----------|---------|
| 心をつなげる | アンドリュウ・ニューバーグ 著 | 東洋出版 | 143-ニ |
| 承認をめぐる病 | 斉藤 環 著 | 日本評論社 | 146-サ |
| 叱られる力 聞く力2 | 阿川 佐和子 著 | 文藝春秋 | 159-7 |
| ヴィランズ 魅惑の言葉 | | 主婦の友社 | 159-エ |
| 何のために働くのか | 寺島 実郎 著 | 文藝春秋 | 366-テ |
| ネットに奪われる子どもたち | 清川 輝基 著 | 少年写真新聞社 | 368-キ |
| ボランティアまるごとガイド 参加のしかた・活動のすべて | 安藤 雄太 監修 | ミネルヴァ書房 | 369.7-7 |
| 数学ガールの秘密ノート 整数で遊ぼう | 結城 浩 著 | S Bクリエイティ | 410-コ |
| カラー版図解でわかる高校物理超入門 | 北村 俊樹 著 | S Bクリエイティ | 420-キ |
| マンガでわかる無機化学 | 齋藤 勝裕 著 | S Bクリエイティ | 430-サ |
| 世界一うつくしい昆虫図鑑 | クリストファー・マーレー 著 | 宝島社 | 486-マ |
| 元祖ハムケツ | 久井 めぐみ ほか 著 | 有蜂書店新社 | 489.4-ヒ |
| いちから聞きたい放射線のほんとう | おかざき 真理 マンガ | 筑摩書房 | 539-キ |
| 12歳からのマナー入門 | 藤川 大祐 著 | 大空出版 | 547-フ |
| ちょっと具合のよくないときのごはん | | 日東書院 | 596-イ |
| それでも僕は夢を見る | 水野 敬矢 著 | 文響社 | 726-ミ |
| 長友佑都体感トレーニング20 | 長友 佑都 著 | KKベストセラー | 780-ナ |
| 僕らがサッカーボーイズだった頃 プロサッカー選手のジュニア時代 | 元川 悦子 著 | カンゼン | 783-ト |
| ソンスル小論文 トクする小論文 | 上田 ひでみ 著 | 学研 | 816-ウ |
| 首折り男のための協奏曲 | 伊坂 幸太郎 著 | 新潮社 | 913.6-イ |
| エウレカの確率 | 石川 智健 著 | 講談社 | 913.6-イ |
| セブン | 乾 くるみ 著 | 角川春樹事務所 | 913.6-イ |
| 珈琲店タレーランの事件簿3 心を乱すブレンドは | 岡崎 琢磨 著 | 宝島社 | 913.6-オ |
| ディズニーおもてなしの神様が教えてくれたこと | 鎌田 洋 著 | S Bクリエイティ | 913.6-カ |
| ディズニーそうじの神様が教えてくれたこと | 鎌田 洋 著 | ソフトバンククリ | 913.6-カ |
| つれづれ、北野坂探偵舎 ゴーストフィクション | 河野 裕 著 | KADOKAWA | 913.6-コ |
| 春の庭 | 柴崎 友香 著 | 文芸春秋 | 913.6-シ |
| 女のいない男たち | 村上 春樹 著 | 文芸春秋 | 913.6-ム |
| 探偵・日暮旅人の笑い物 | 山口 幸三郎 著 | メディア・ワーク | 913.6-ヤ |
| 満願 | 米澤 穂信 著 | 新潮社 | 913.6-ヨ |
| わたしはマララ 教育のために立ち上がり、タリバンに撃たれた少女 | マララ・ユスフザイ 著 | 学研 | 929-コ |
| バニヤンの木陰で | ヴァディ・ラトナー 著 | 河出書房新社 | 929-ラ |

※請求番号とは、本の内容を表しています。図書館の本はこの番号順に並んでいますので、この番号の書かれている背表紙のラベルを見ると捜しやすいです。



「フォト俳句」

あまり聞きなれない言葉かもしれませんが、写真を見て、どう感じたかを五七五の短い文章で表現するものです。一枚の写真でも、見る人の心に写る景色はさまざま…人それぞれの物語が自由に表現されています。写真は写真部の協力によるものです。

「詩とイラスト」

10P〜12Pも生徒の作品です。詩は、福島県文学賞に応募して好評だった二人の詩の作品群の中から選びました。そしてそれぞれの詩のイメージに合うイラストを漫画研究部の皆さんに描いてもらいました。どれも想像力に溢れる素敵な作品たちです。



写 真 (1年) 吉田 智晶

もう少し輝くきみに届くまで

渡部 知佳

炎天下眼に見ゆるもの霏かかる

渡邊 七音

いつの日かあなたみたいな華になる

七澤 涼子

涙のむいつか必ず主役とる

渡邊 麗奈

水平線あの日の俺と旅したい

松谷雄之輔

雲の上空飛ぶ心君のもと

渡部 知佳

夢乗せていざキックオフドイツの地

植村 隼人

空の中誰より近くで初日の出

五ノ井りょう

地平線自分を超える基準点

渡邊 七音

大会だあの日のおれを越えてやる

本多 海斗

越えてやるいつか必ず憧れを

渡邊 快

年越しを機内で過ごす我ひとり

七海 英生



写 真 (1年) 渡辺 真未

蜜探しボクは今日も旅をする
石井 綾音

夏空に昇り続ける黄金花
小檜山 篤

夏の日に走り出したの花畑
上石 静夏

夏だけの小さい太陽サキホコル
佐川 拓哉

おいしいな甘い太陽最高だ
橋本 有加

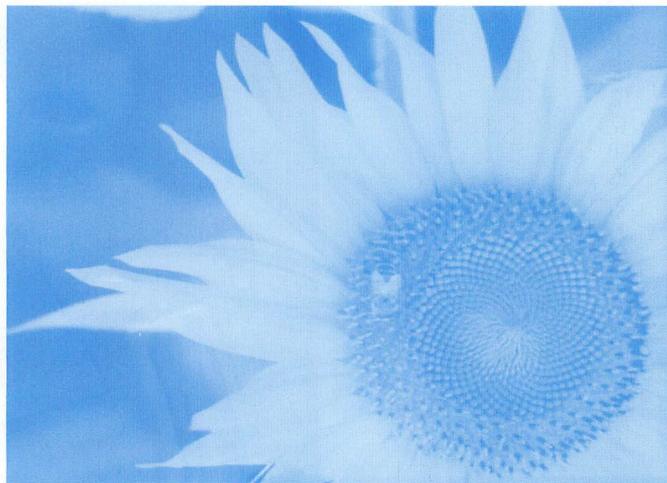
夏休み笑顔あふれる花畑
植村 隼人

憧れて一生懸命ついていく
渡邊 麗奈

太陽のもとに小さき命あり
七海 英生

太陽に憧れ開く昼下がり
白石 勇人

道行けば蛍に似たる花畑
小林 航大



写 真 (1年) 西関 里奈

この場所もよくはないけど悪くない

渡邊 一東



写 真 (1年) 大門 亜美

王子様私を遠くに連れてって
濱尾かれん

風感じ見つけにいこう山の秋
石井 綾音

故郷を恋しく思う季節かな
大野 静香

夏近し木漏れ日感じ風が吹く
伊藤真古都

木々のさすすきまのひかり温かい
国分 正樹

澄んだ空沈んだ心の紺碧さ
渡邊 七音



写 真 (1年) 黒川 和美

疲れたよ練習終わりコンピニGO!

青木 峻

丸ボウズ明日試合だ帰り道

岡田 樹紀

茜空優しい光で癒されて

佐久間智香

悲しみも涙も蒼く染まる恋

岩橋 若菜

帰り道夕焼け小焼け音が鳴る

山北 春菜

夕焼けで気持ち安らぐわが心

原 英寿

夕暮れに赤く染まった帰り道

菅谷 海豊

試合あと僕の心は暮れの空

安藤 太一

行く秋に逝く日を重ね惜しむ空

柳田 大地

甲子園優勝すると日に誓う

遠藤 奈美

地平線夕焼け空にまた明日

高橋 大河

夢かけて千本ノック日が沈む

香西 駿矢

重陽の照らすは道の木槿かな

斉藤 大河

夕焼けに明日を見上げて夏終わる

中野 優磨

恋人と一緒に帰る夢を見る

濱尾かれん

陽に誓う絶対優勝甲子園

佐藤 優磨

一番星告白すると決意する

渡邊 麗奈

秋の空全国制覇陽に誓う

常盤 悠

婚活中イケメンみつけはしゃいでる

十文字拓真

果てしない海の旅路は永遠に

伊東 祐介

青い空広い世界にあなただけ

千葉可奈子

大海で出会ってしまった運命だ

山内 浩美

魚の目見つめる先にはイケメン魚

藤田 夏帆

赤い糸広い世界で出会う人

濱尾かれん

二人きり優柔不断に腹が立つ

二瓶 佳菜

茜色君を見つけてほほ染まる

渡部 知佳

夏の空希望は昇り日は沈む

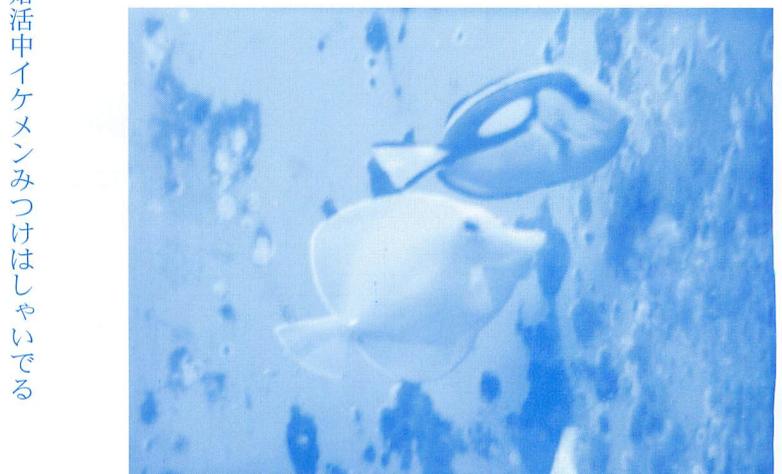
尾形 潤

夕焼けに思いはせたる恋水なみだかな

遠藤 香碧

既読無視落ち込まないのがこれオレ流

鈴木 温菜



写 真 (1年) 七井 愛

詩 と イラスト

へ王と鼠色✓

その高い椅子に

座るのが

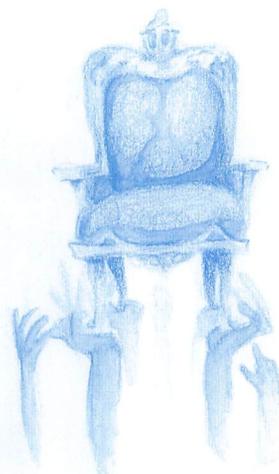
ゴールなのか

そこから全て

見えますか

あなたのその場所を

支えている人たちが



「忘れもの」
 いつも使っている傘
 いろんなところで
 忘れられてる
 コンビニで
 学校で
 レストランで
 いろんな場所に
 置きざりにされている
 ビニール傘
 布の傘
 折りたたみ傘
 色とりどりの傘が
 あなたのむかえを
 待っている
 きつと寂しいだろう
 あなたが来てくれなくて
 きつとくやしvoudろう
 使ってもらえなくて
 入り口の隅の傘立てに
 雨にぬれて
 泣きじゃくった
 子供のように
 あなたの帰りを
 待ち続けている



詩 (1年) 渡辺 七音
 イラスト (2年) 坂井 智絵



「次世代への託し」
 次の世代にまかすな
 まず自分から
 試して
 試して
 試して
 試して
 それでもダメなら
 どうしても
 出来ないならば
 具体的な形にして
 託してください

詩 (3年) 及川 佑也
 イラスト (1年) あおい
 字 (3年) 海野 皓子

〔方法〕

このなんでもない

ことばの一編を

たかが

ことばあそび

されど

ことばあそび

これが私の方法



詩 (3年) 及川 佑也

イラスト (1年) ゆり

〔紫陽花〕

赤いあじさいは恋の色

真っ赤に熟した苺

甘酸っぱくてフレッシュな

恋^{なみだ}水色のときめき

赤いあじさいは恋の色

燃えるマグマ

熱く煮えたぎる

韓紅の情熱

赤いあじさいは恋の色



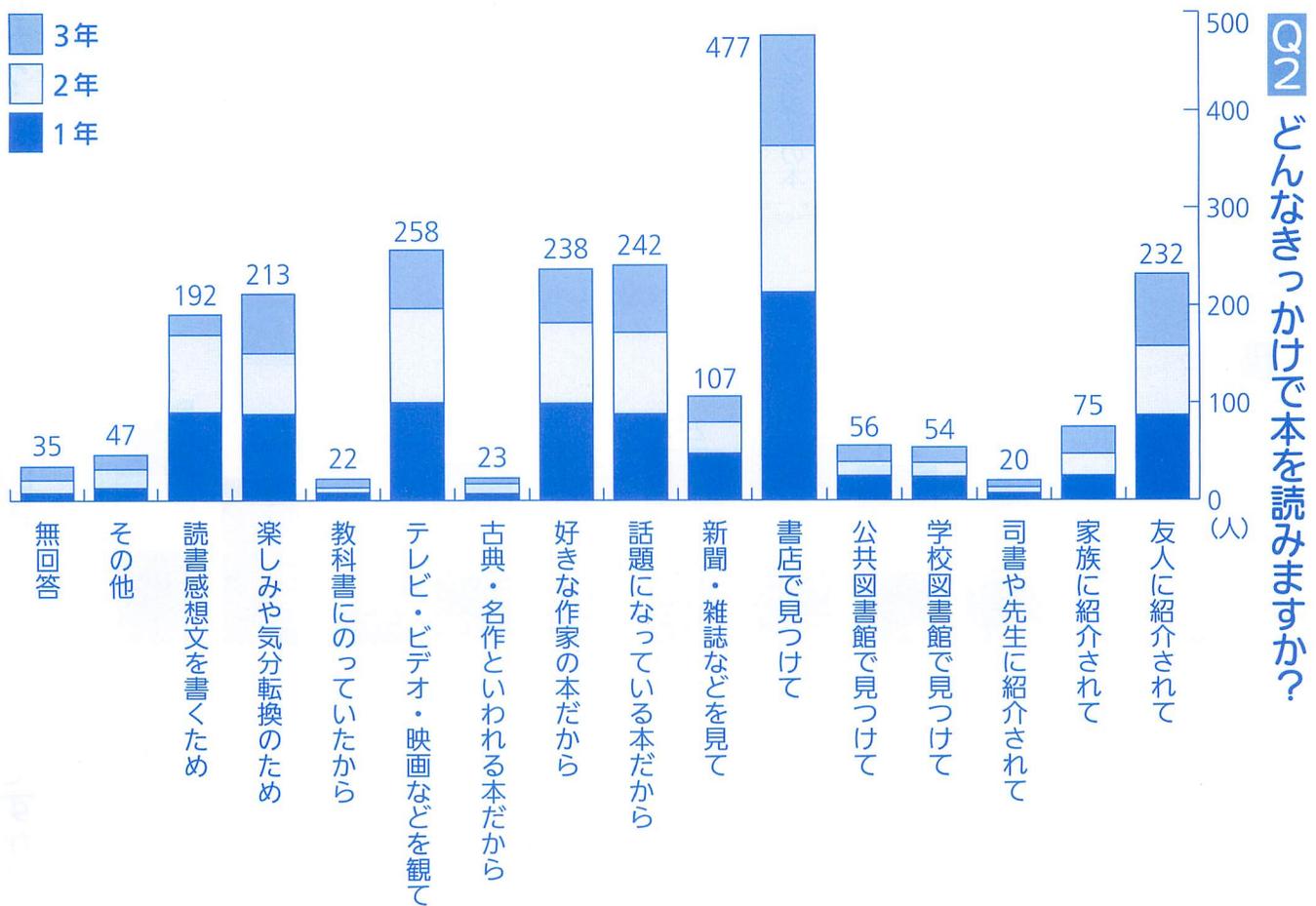
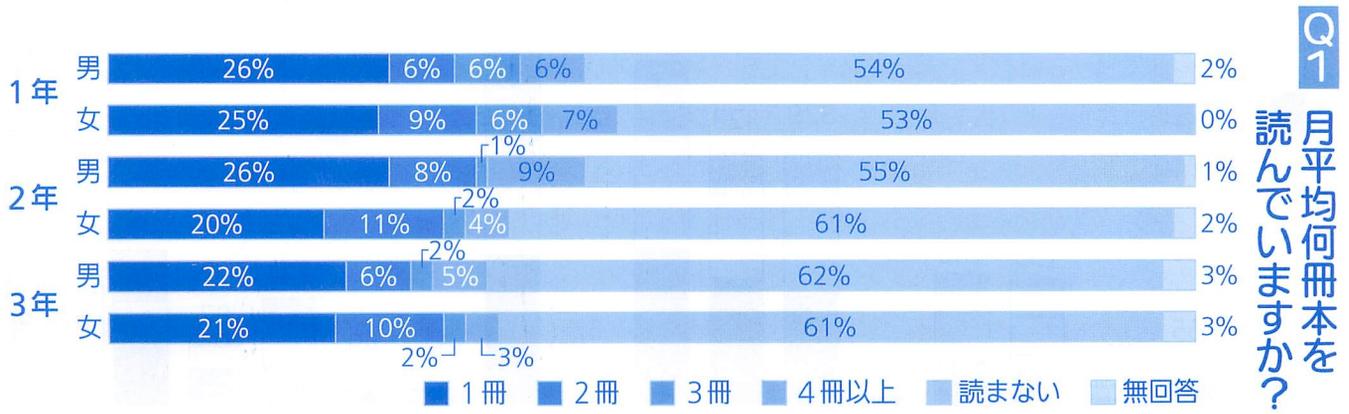
詩 (1年) 渡辺 七音

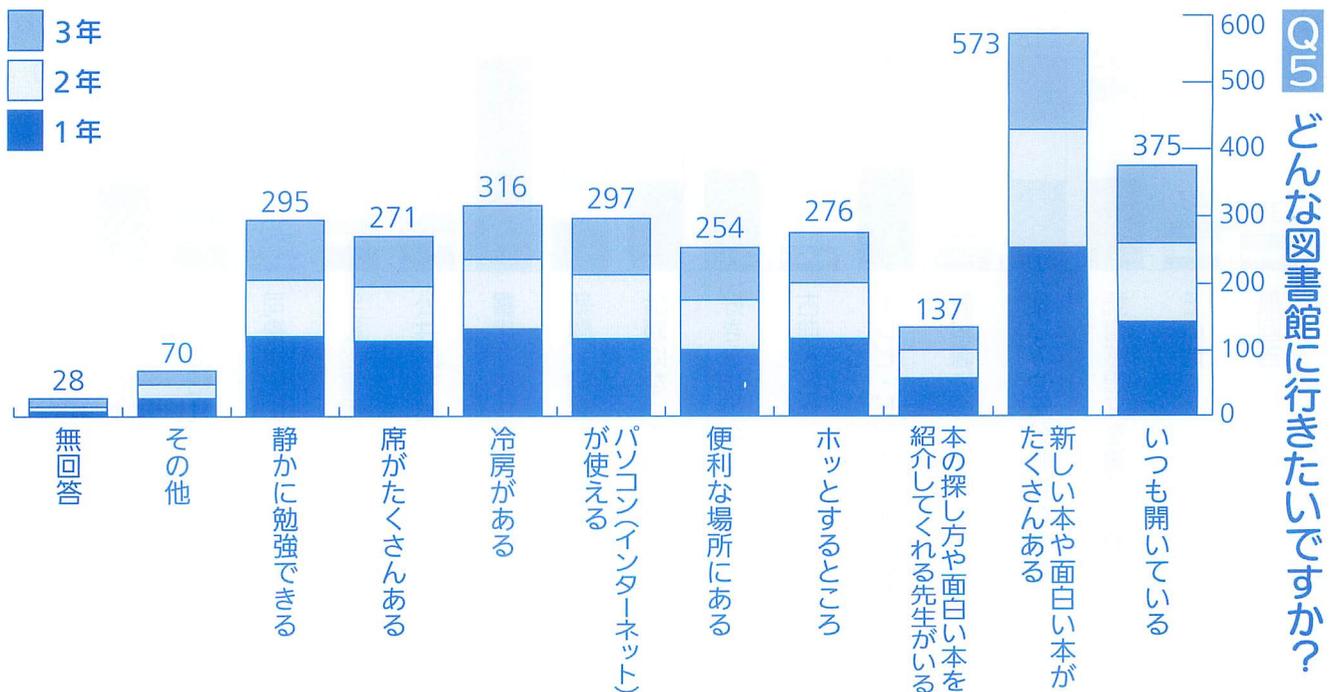
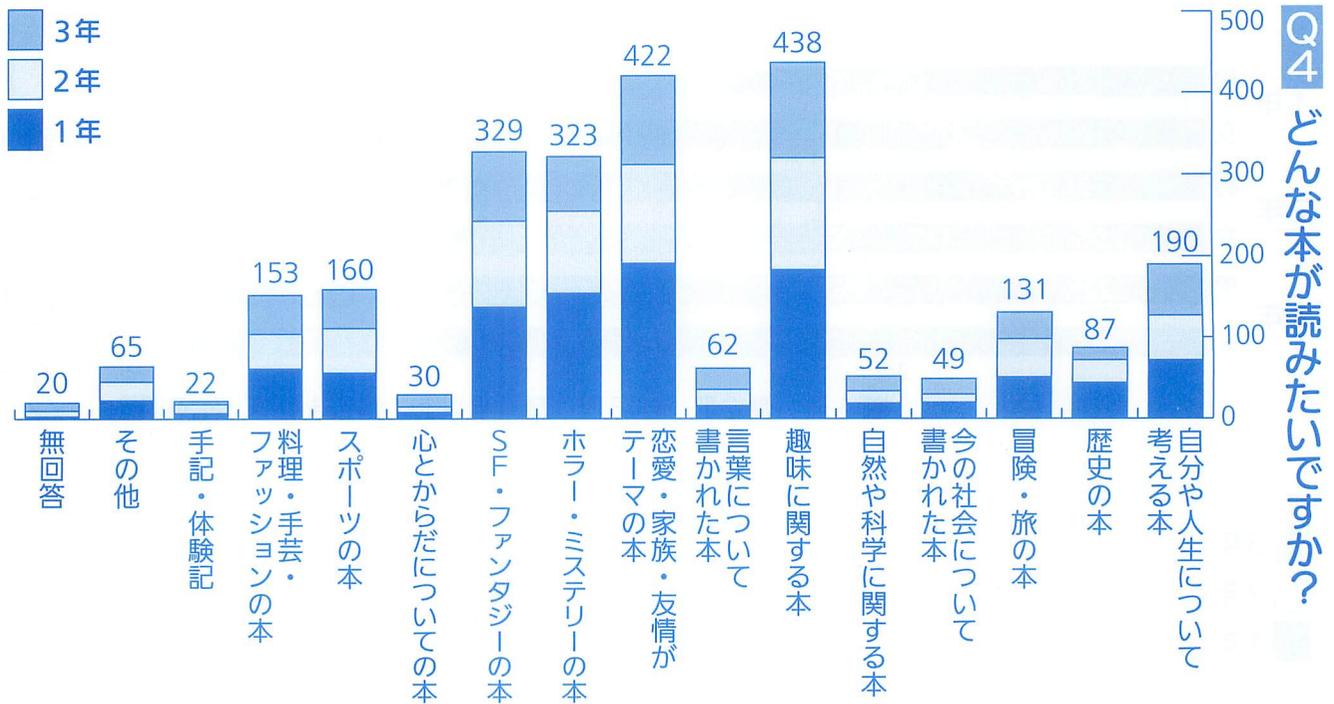
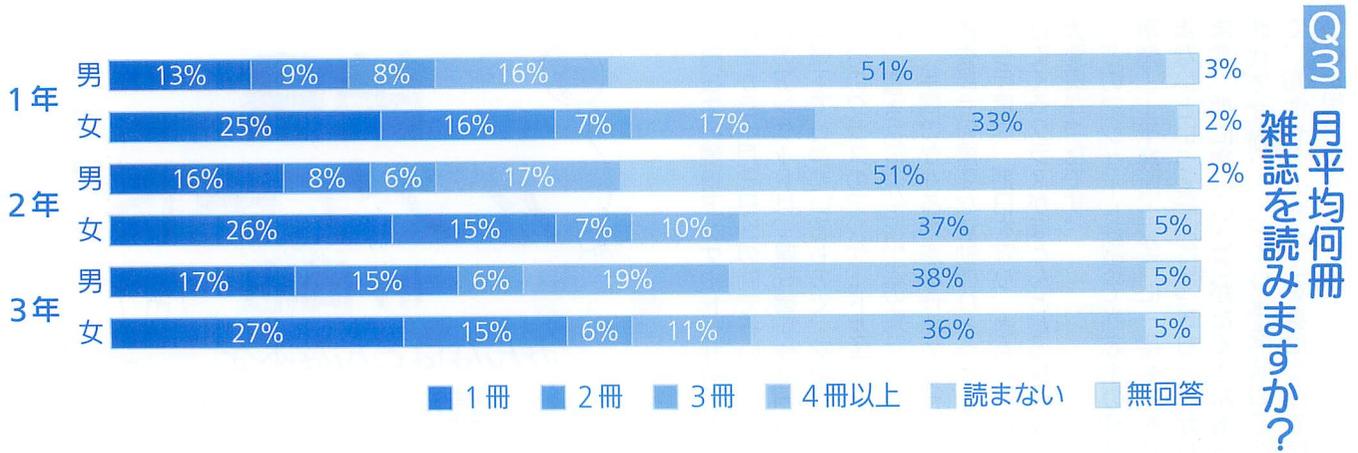
イラスト (2年) 石田 麻貴

(ページの都合で後半は略させて頂きました)

高校生の読書アンケートを九月二十六日(金)から十月三日(金)の間で行いました。このアンケートは、県司書研修会が毎年全県下で行っているもので、図書委員が自分のクラスのアンケートを実施、回収し、書き込みが百以上の集計を行います。手間のかかる地道な作業ですが、図書委員会の重要な活動のひとつです。今年度は、期日を守り、きちんと仕上げてくるクラスがほとんどだったので、大変良かったです。

このアンケート結果で尚志生の読書事情―半数以上が月に一度も本を読まないという実態がはっきりとわかります。他に楽しいことがたくさんある時代ですが、じっくり本を読むことで、知性や心の豊かさを身につけてほしいと思います。





Q6 最近読んだ本

〈男子〉

| | 1年 | 人 | 2年 | 人 | 3年 | 人 |
|----|--------------------|---|--|---|-------------------------------------|---|
| 1 | ふたり手紙 | 6 | 星の王子様 心の野球 人間失格 永遠の0 ソード・アート・オンライン 神様の御用人 | 3 | 王様ゲーム | 3 |
| 2 | ボトルネック 甲子園の割れた日 | 5 | | | 終物語 曆物語 心を整える 日本男児 永遠の0 | 2 |
| 3 | ガリレオシリーズ | 3 | | | | |
| なし | 106 | | 106 | | 105 | |

〈女子〉

| | 1年 | 人 | 2年 | 人 | 3年 | 人 |
|----|-----------|----|-------------------------|---|----------------------------|---|
| 1 | ふたり | 27 | きみの友だち 星の王子様 | 5 | 神様のカルテ | 4 |
| 2 | 手紙 | 15 | ふたり | 4 | こころ 植物図鑑 図書館戦争 | 3 |
| 3 | 向日葵の咲かない夏 | 13 | 人間失格 流れ星が 消えないうちに | 3 | 思い出のマーニー 青空のむこう 永遠の0 | 2 |
| なし | 106 | | 89 | | 101 | |

Q7 心に残った本

〈男子〉

| | 1年 | 人 | 2年 | 人 | 3年 | 人 |
|----|---------------------|---|--------------------------------------|---|--|---|
| 1 | 心を整える 手紙 | 6 | 永遠の0 ぼくは勉強ができない | 4 | ホームレス中学生 一瞬の風になれ | 4 |
| 2 | カラフル | 5 | 告白 西の魔女が死んだ | 3 | 心を整える プレイブ・ストーリー ボックス | 3 |
| 3 | 王様ゲーム プレイブ・ストーリー | 4 | さくら荘の ベツな彼女 王様ゲーム 夜は短し歩けよ乙女 | 2 | 塩狩峠 カラフル 風の中のマリア こころ 図書館戦争 | 2 |
| なし | 93 | | 117 | | 97 | |

〈女子〉

| | 1年 | 人 | 2年 | 人 | 3年 | 人 |
|----|------------------|----|--|---|---|---|
| 1 | カラフル | 10 | 西の魔女が死んだ | 6 | 99の涙 図書館戦争 | 4 |
| 2 | ふたり | 7 | 人間失格 告白 夏の庭 星の王子様 レインツリーの国 | 4 | 西の魔女が死んだ 1リットルの涙 博士の愛した数式 | 3 |
| 3 | 神様のメモ帳 ボトルネック | 5 | | | ツナグ 告白 100回泣くこと ディズニーの そうじの神様 | 2 |
| なし | 80 | | 74 | | 88 | |

Q8 好きな作家

〈男子〉

| | 1年 | 人 | 2年 | 人 | 3年 | 人 |
|----|------------------------|----|-------------------------|----|------------------------|----|
| 1 | 山田 悠介 | 12 | 山田 悠介 | 10 | 山田 悠介 | 13 |
| 2 | 東野 圭吾 | 5 | 東野 圭吾 | 5 | 西尾 維新 | 6 |
| 3 | 有川 浩 赤川 次郎 伊坂幸太郎 | 3 | あさのあつこ 有川 浩 伊坂幸太郎 | 3 | 鎌地 和馬 東野 圭吾 星 新一 | 3 |
| なし | 144 | | 141 | | 111 | |

〈女子〉

| | 1年 | 人 | 2年 | 人 | 3年 | 人 |
|----|-------|----|----------------|----|-------|----|
| 1 | 東野 圭吾 | 14 | 山田 悠介 | 23 | 山田 悠介 | 15 |
| 2 | 有川 浩 | 12 | 有川 浩 | 10 | 有川 浩 | 8 |
| 3 | 山田 悠介 | 9 | 赤川 次郎 森見登美彦 | 5 | 湊 かなえ | 6 |
| なし | 144 | | 96 | | 109 | |

Q9 よく読む漫画

〈男子〉

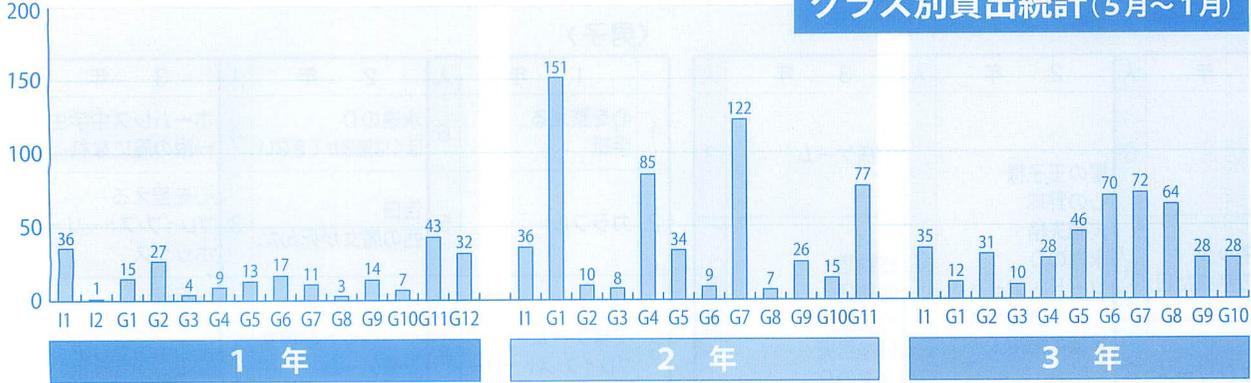
| | 1年 | 人 | 2年 | 人 | 3年 | 人 |
|----|-----------|----|-----------|----|----------------|----|
| 1 | ONE PEACE | 15 | ONE PEACE | 34 | ONE PEACE | 15 |
| 2 | 東京喰種 | 10 | ナルト | 12 | ハイキュー！！ ナルト | 6 |
| 3 | 黒子のバスケ | 8 | ハイキュー！！ | 11 | ダイヤのA 東京喰種 | 5 |
| なし | 82 | | 63 | | 70 | |

〈女子〉

| | 1年 | 人 | 2年 | 人 | 3年 | 人 |
|----|---------|----|-----------------|----|-----------|----|
| 1 | アオハライド | 28 | アオハライド | 23 | アオハライド | 15 |
| 2 | ハイキュー！！ | 23 | ハイキュー！！ 東京喰種 | 16 | ONE PEACE | 10 |
| 3 | 黒子のバスケ | 16 | 黒子のバスケ | 9 | ハイキュー！！ | 8 |
| なし | 99 | | 52 | | 88 | |

(冊/クラス) (利用者数 3,564人、総貸出冊数 1,236冊)

クラス別貸出統計(5月~1月)



貸出及び
利用状況について

多読者賞

一年間で図書館の本をたくさん利用した人に図書委員会から毎年贈っている賞です。一年生の利用がとてもなく残念です。

〈三年〉

- 第1位 3 G 8 宗像 拳 六四冊
- 第2位 3 G 5 堀田 彪 五五冊
- 第3位 3 G 2 岩井 裕梨 二八冊
- 第3位 3 G 11 鈴木あかり 二八冊
- 第4位 3 G 7 浜田 真有 二六冊
- 第5位 3 G 6 高橋 美有 二〇冊
- 第6位 3 G 7 増子みなみ 十四冊

〈二年〉

- 第1位 2 G 1 工藤 大介 一二五冊
- 第2位 2 G 7 鈴木ほか 一一九冊
- 第3位 2 G 11 庄子 時央 五九冊
- 第4位 2 G 4 芳賀 正実 四〇冊
- 第5位 2 G 4 對馬 広悟 三八冊
- 第6位 2 G 5 渡邊 真衣 三四冊
- 第7位 2 G 9 郡司 和樹 二九冊
- 第8位 2 G 1 石澤 宇章 二二冊
- 第9位 2 G 1 北野瑛梨奈 十四冊
- 第9位 2 G 7 伊藤 一輝 十四冊

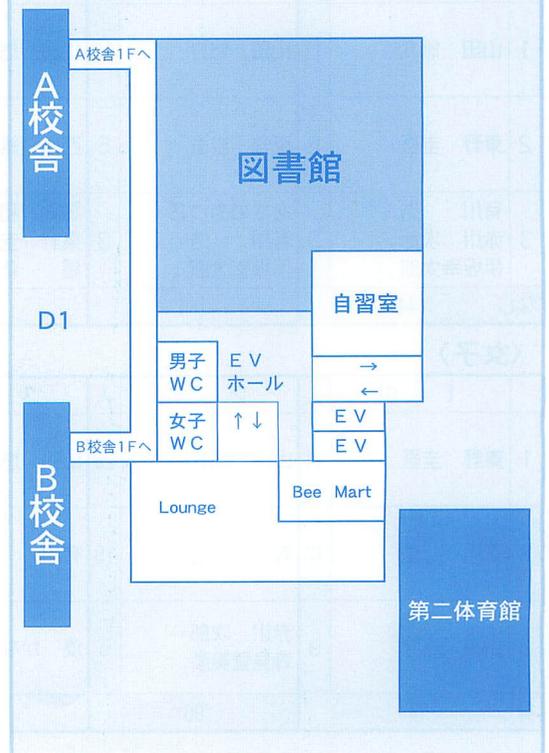
〈一年〉

- 第1位 1 G 11 岡田 凜 三一冊
- 第2位 1 1 1 中村 莉緒 二九冊
- 第3位 1 G 2 高橋 里奈 十三冊
- 第4位 1 G 2 後藤 唯菜 十二冊

(平成27年1月31日調べ)

図書館の場所

〈上から見た図〉



図書館利用について

○利用時間 九時三十分〜十八時

※授業時間中の利用は、担当教諭の許可がなければ出来ません。

○貸出・返却について

・本は、一人二冊まで

・一週間借りる事ができます

※バーコードでの貸出しを行っていただきますので、入学時配布された自分の生徒証を持って来て下さい。

※教室や部室などから図書室の本が見つかることがよくあります。自分で借りた本は責任を持って、きちんと返却しましょう。

◎自習室の利用について

・利用時間 放課後〜十九時

・飲食・携帯・おしゃべりは禁止です。
・使った後はきれいに片づけること

編集後記

今回は、大リニューアルです。表紙を流麗なイラストに、ページ数を倍の16ページにして、読書感想文をはじめ、詩・俳句・イラスト・写真と生徒の作品を多く掲載しました。地味な図書委員も読書アンケート実施・集計という大変な仕事の結果をのせています。(こちらは毎年ですが)文化系生徒の頑張り大特集になりました。いかがでしょうか。さまざまな先生方や生徒の皆さんの協力でお上がった図書館報です。多くの人に是非読んで頂きたいです。(司書 渥美)

